

光輝く！大鳥中学生！！

(14)

今回は見出しが
ちよと狭い！！

(題字は二年二組片岡華凛さんです。)
。今号も先生方は皆えの輝く行動を見逃す投稿といふ。

日
に
新
た



第五十三号
大鳥中学校
令和七年十月二十八日

後期のメンバーになり、配膳室当番が2回目の1年生給食委員。仕事をしっかり覚えていて、手際がよく、本当にすばらしいです。一生懸命、活動してくれてありがとう。

授業のために大荷物を持って職員室を出た時、先に出ていた1年生の男子生徒が私が出るのを待っていて、扉を閉めてくれました。ステキな心遣いをありがとう！

下校時に1年生の生徒会会計の生徒が校旗を片付けていました。周りに先生もいましたが、先生に頼ることなく自分で職員室に返しに行きました。自分の責任を最後まで果たそうとするその姿に感動しました。

今週は欠席者が多かったけれど、給食当番を手伝ってくれる人、黒板清掃をしてくれる人、みんな率先して動いてくれたおかげで、毎日の生活をいつも通りに送ることができました。優しいみんなに感謝！！

清掃終了時に「ご苦労様でした」のあいさつの後、さらに「ありがとうございました」と付け加えてくれる皆さん…ありがたいのは、むしろ私の方です。そういう謙虚さも輝いています。

道徳の時間、一人一人のいいところを書く活動に、熱心に、そして楽しそうに取り組んでいましたね。そんな皆さんがすてきです。

1年技術科の授業でも、重い機材(ベルトサンダー)を率先して一人で運んでくれる男子生徒が多い。

3年生のプレゼンの質の高さに驚きました。とてもすばらしい発表が多く、ジェイ先生もビックリしていました。

広報誌「おとり」の原稿依頼をしたみなさん。全員が締切日までにぎっちり提出してくれました。文章もとても上手に書けていましたよ。ご協力ありがとうございました。

3年生の体育の授業で、ミスをしてしまった友達に「惜しいよ」や「次は返そう」と優しい言葉がけができていたことがすばらしいです。

給食の時間の準備も片付けも、少ない人数で毎日、自主的にお盆を配り、はしを配り、牛乳を配る我がクラスの生徒の姿がすばらしいです。

大鳥中学校では、授業開始1分前着席を心がけています。時計を見ながら、「そろそろ時間だ」と着席。机の上には次の時間の準備。当たり前になっていることがすばらしい。

教育相談時の部活動。自主的に取り組んでいる姿を見ることができました。顧問の先生がいるとか、いないとか、関係なく、自分だけで取り組めることがすばらしいと思いました。

スマホの「表」と「裏」～中学生にとってスマホが持つ意味を理解する～

スクールカウンセラー 菅原理恵

保護者のみなさま

「スマホばかり見ている」「もっと外で遊んでほしい」お子さんの様子を見て、そう思うことはありませんか？気持ちはよくわかります。しかし、現代の中学生にとってスマホやSNSはもはや「遊びのための道具」というよりも、「社会生活に不可欠なもの」となっています。今回からスマホやSNSについてお話しします。

スマホは、今や「居場所」であり「情報源」

まず、スマホが現代の中学生にとって、いかに魅力的で必要なものか整理してみましょう。

①学習と情報収集の幅を拡大させる

授業で理解できなかったことを動画で確認したり、部活動の技術を調べたりと、学習や興味のある分野の情報収集力を大きく高めるために使うことができます。

②「流行」と「自分らしさ」を表現する場

友人との共通の話題となる流行の音楽やファッション、情報などを瞬時にキャッチできるだけでなく、自分自身の興味や個性に合わせてそれらを取り入れ、表現方法を自分なりに試して、自分らしさを作り上げる場となっています。

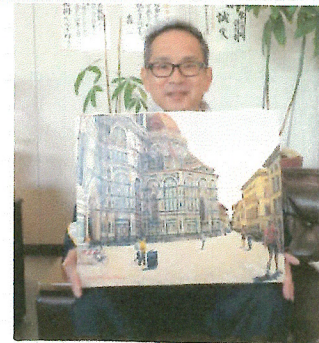
③自分達の「居場所」

友人との繋がりを保つために、SNSやメッセージアプリは不可欠なコミュニケーションツールです。集団への所属意識が強い思春期の子どもにとって、そこから切り離されることは「孤立」を意味し、大きな不安につながることもあります。

心の解放感



「ギャラリーK」開設



第4回油絵
「石畳の街」

美術科近藤寛人先生の作品と職員室前
に掲示板に飾りました。皆さんに本物を見て
ほしいと思います。

教育相談を終えて

お忙しいところお忙しい中ありがとうございました。
担任の様々な情報提供もあり、保護者の皆様も
日頃感じていられたことなどお話しすることができました。
改善すべきことは、すぐに改善してはなりません。
その場合、改善してやるのではなく、改善できる環境を
整えてやることのほうが大切です。大鳥の子は大丈夫。
しっかり見守っていきましょう。(4)

子どもの「見えない疲れ」

スマホにはメリットも多いですが、一方で大きな心の消耗をもたらします。

①「既読」と「返信」のプレッシャー

友人同士の連絡は即座に行われるため、「既読スルー」や「返信の遅れ」は、現実の人間関係と同じか、それ以上にトラブルや摩擦の原因になり得ます。子どもたちは、スマホの画面の裏側で、人間関係に気を遣い続けていることもあります。

②ON/OFFがない

かつての学校生活は下校で学校での人間関係から解放されましたが、SNSは24時間、友人と繋がっています。この「繋がりが止まらない」状態が、脳と心に休息を与えにくくなっています。

③「理想の自分」を演じる努力

SNSに投稿する際は、自分の生活や発言を「友人にどう見られるか」と意識的に編集することもあります。「理想の自分」を演じることが、現実の自分とSNS上の自分の間で大きなギャップを生み、静かに心を消耗させていくかもしれません。

今回はスマホの「表」と「裏」についてのお話をしました。スマホは保護者の方にとっては、緊急時の連絡手段となるだけでなく、GPS機能により子どもの居場所が確認できる安心感をもたらす面もあります。

今回は、今回お話ししたスマホやSNSの疲れを踏まえ、具体的な声かけやかかわり方についてお伝えします。